

2010 年度里親・ファミリーホーム専門研修

	テーマ	講師(所属は当時)	内容
2010年9月 19日	乳幼児の発達と障害	宮崎千明 (福岡市立西部療育センター所長)	乳幼児の発達についての基本的考え方と、発達障害を抱えた子どもとの関わりについて。
2010年 10月26日	愛着形成に課題をもつ子ども	森田展彰 (筑波大学教授)	親からの虐待やネグレクトなどの影響で、愛着形成が困難な子どもへの理解と関わり方について。
2010年 11月13日	アセスメントと養育計画	山田勝美 (山梨立正光生園園長)	子どもたちの抱えている問題を理解し、養育に活かしていくための視点について。
2010年 12月12日	こころの糧としての子ども時代	村瀬嘉代子 (日本臨床心理士会会長)	子ども時代をどう過ごすことが、大人になってからのこころの糧となるのか、講師の実践をもとに考える。
2011年 1月16日	子ども虐待へのケアを 草の根で広げよう (公開フォーラム)	杉山登志郎 (浜松医科大学児童青年期精神医学講座 特任教授)	虐待を受けた子どもを様々な角度からケアしていくことの必要性和、地域の中で虐待をどう防いでいくのかについて。
2011年 2月8日	家庭で育つということ・家族を支えるということ ~国連ガイドラインについて学ぶ~	山本裕子 (西南学院大学社会福祉学科 准教授)	国連子どもの代替養育に関するガイドラインについて学び、日々の養育実践について見直す。

2011 年度里親・ファミリーホーム専門研修

	テーマ	講師	内容
2011 年 9 月 18 日	性的虐待／ケア・スタディ*	西澤哲 (山梨県立大学)	性的虐待についての現状と、子どもへの影響について学び、日常の子ども性の化行動にどのように対応していくかを検討する。
2011 年 12 月 17 日	家庭的養育における ストレスマネジメント	大澤智子 (兵庫県こころのケアセンター)	トラウマを抱えた子どもを養育する養育者が抱えるストレスについて学び、ストレスにいかに対処するかを学ぶワークショップ。
2012 年 1 月 15 日	家庭的養育における実親家庭 との連携／ケア・スタディ	広岡智子 (子どもの虐待防止センター)	里子の実家族と里親がどのように関係をつくり、連携していくのか、講師の実践をもとに学ぶ。
2012 年 3 月 17 -18 日	合宿研修 私は育てられた・私は育てる ～自分史から振り返る里親養育～	森茂起 (甲南大学)	養育者自身が自分について振り返り、日々子どもとの関わり、養育についても振り返っていく合宿ワークショップ。

* ケア・スタディとは

《目的》 家庭的養護(里親、ファミリーホーム、グループホームなど)に携わる人たちが、毎日の子どもの養育について振り返り、養育の質を向上していくために行います。

《方法》 ケア・スタディに参加する方はその目的と守秘義務を遵守する誓約書を提出します。

テーマに沿ったケア報告を 10 分程度してもらい、参加者全員で課題を共有し、よりよいケア(養育者の関わり)についてみんなで考えていきます。

報告の際は、**ケア・スタディシート**を利用します。

《ケア・スタディという名称について》 事例検討(ケース検討)は専門家の間では一般的ですが、里親や児童養護施設職員の間ではまだ一般的ではありません。また、医療機関や児童相談所のケースとは違い、毎日の生活の中で様々な養育上の課題を解決していかなければならない里親やファミリーホームの場合には、「事例(ケース)」という言葉があまり馴染まないということから、よりよいケア(養育者の子どもとの関わり)を皆で学んでいくという意味で『ケア・スタディ』という名称にしています。

2012 年度里親・ファミリーホーム専門研修

日時	テーマ	講師	内容
2012 年 10 月 7 日	愛着形成に課題をもつ 子どもとの関わり方 ～セラ・プレイ技法に学ぶ～	高井美和 (セラプレイカウンセリングセンター 東京 所長)	発達障害や、愛着障害などにより、関係づくりの難しい子どもとの関わりについて、セラ・プレイの理論や技法に学ぶ。
2012 年 11 月 18 日	子どもの人生をともにつむぐ ライフストーリーワーク I (基礎編)	藤澤陽子 (国立武蔵野学院 心理療法士)	里親委託の前と後、施設入所の前と後などで途切れがちな子どものライフストーリーを、里親や職員が丁寧につなげていくことが子どもの成長やアイデンティティ形成にいかにか重要であるかを学び、実際に子どもとの間で直面したライフストーリーにまつわる課題をケア・スタディしていく。
2013 年 2 月 2 日	子どもの人生をともにつむぐ ライフストーリーワーク II (実践編)		子どものライフストーリーワークを実際に行っていく時に重要となるポイントや、留意点について学び、里親が実際に子どもとの間で行ったものを持ち寄り、検討する。さらに、実親との別離を対象喪失という視点も持ちながら、より実践的に学んでいく。
2013 年 3 月 2-3 日 合宿研修	私は育てられた、私は育てる	森茂起 (甲南大学)	養育者自身が自分について振り返り、日々の子どもの関わり、養育についても振り返っていく合宿ワークショップ。

2013 年度里親・ファミリーホーム専門研修

日時	テーマ	講師	内容
2013 年 8 月 4 日	子どもの人生をともにつむぐ ～里親養育における喪失について～ ／ケア・スタディ	松崎佳子 (九州大学大学院 教授)	幼少期の実親、実家族との別れ、住み慣れた地域との別れ、保育園や学校との別れ、子どもたちは様々な別離と喪失を体験している。 そのような別離と喪失が子どもにどのように影響するのかを学び、ともに子どもの人生をつむぐ大人として、どう寄り添っていくのかを参加者の養育実践をふまえながら、ケア・スタディする。
2013 年 11 月 6 日	子どもの忠誠葛藤 (Royalty Conflict) ～実親との関係葛藤をどう乗り越えるか～ ／ケア・スタディ	Dr.Cristian Posch (SOS 子どもの村国際教育担当)	子どもたちの実親や実家族と里親やその他の養育者、子ども、この三者の関係性からどのような葛藤が起こりうるのか、また、その葛藤をどのように乗り越えていくのかを学ぶ。
2014 年 7 月 25 日 2 月 15-16 日 合宿研修	Circle Of Security (サークルオブセキュリティ) に学ぶ子どもの愛着行動	北川 恵 (甲南大学 教授)	子どもの愛着行動の特徴と、そこに関わる養育者自身の関わりの特徴をみなおし、子どもとのよりよい関係づくりについて学ぶ。
	物語が生きる力を育てる	脇 明子 (岡山こどもの本の会 代表)	絵本や本を楽しみながら、物語が生きる力を培っていくことについて学ぶ。